

税金へのありがたみ

芦別市立芦別中学校 二年 田川 愛花梨

私には、幼少期から可愛がってくれたひいおじいちゃんがいました。

しかし、二カ月前、体調を崩し病院で診てもらったのだけど対応できなかったため、二つ目の病院で診てもらうことになりました。その際、救急車を用意してくれていたのですが、スムーズに二つ目の病院で診てもらうことができませんでした。診断の結果、ひいおじいちゃんは、「大動脈瘤」という病気にかかってしまい、瞬時にICUへと入りました。その時は会話もできない状態で、私達は不安に陥っていました。さらに、ICUに入って治療している時間帯は真夜中でした。その後、体調は徐々に安定していき会話をすることも可能となりました。

しかし二日後、体調が急変してしまい約八時間にも及ぶ手術を行いました。それ以来から、ひいおじいちゃんとは話ができなくなっていました。それでも医者さんや看護師さん方は、全力で治療を施してくれたのですが、残念ながら助かりませんでした。

でも、ひいおじいちゃんが亡くなる前、大好きな人達と話を交し合うことができたので、きつときみしくなかったです。

こうやって、命が危険な状況でも話ができる時間をつくってくれたのは、税があったからだと思います。

もし、仮に税がなかったら、救急車だって、一度運ぶごとに大量のお金を払わないといけないし、病院だって、真夜中の受診となるとそれなりにお金がかかってしまいます。そんな状況だったら、ひいおじいちゃんとは一度も話せないままお別れしてたと思います。

私は、これから大人へとなっていく、いずれ納税者となります。そうなったとき税の使い道などを知っておかなければいけません。そして今、私達が安心して暮らせているのは税がさまざまな面で使われているからだと思います。

私が伝えたいのは、税があるというのをあたり前だと解釈せず、ありがたみをもって暮らしていくってほしいということです。このことが他の人にも伝わり税の見方が変わっていくことを願っています。